



平成 19 年 10 月 25 日

各 位

会 社 名 大同メタル工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 坂本 雅昭  
(コード番号 7245 東証・名証第 1 部)  
問合せ先 執行役員総務センターチーフ 玉谷 昌明  
(TEL. 052-205-1401)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 14 日の「平成 19 年 3 月期決算短信」で公表しました平成 20 年 3 月期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日) の中間期及び通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

なお、平成 20 年 3 月期配当予想には修正はございません。

### 記

#### 1. 平成 20 年 3 月期中間期業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

##### (1) 連結

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 19 年 5 月 14 日発表)	32,800	1,250	1,050	120
今回修正予想 (B)	32,910	540	470	△650
増減額 (B-A)	110	△710	△580	△770
増減率 (%)	0.3	△56.8	△55.2	—
(ご参考) 前中間期実績 (平成 18 年 9 月中間期)	31,170	1,113	1,191	115

##### (2) 個別

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 19 年 5 月 14 日発表)	25,800	2,000	1,900	1,100
今回修正予想 (B)	26,340	1,810	1,810	△840
増減額 (B-A)	540	△190	△90	△1,940
増減率 (%)	2.1	△9.5	△4.7	—
(ご参考) 前中間期実績 (平成 18 年 9 月中間期)	24,234	1,843	2,209	1,279

2. 平成20年3月期通期業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

(1) 連結

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月14日発表)	67,100	3,300	2,800	600
今回修正予想(B)	68,730	880	530	△1,750
増減額(B-A)	1,630	△2,420	△2,270	△2,350
増減率(%)	2.4	△73.3	△81.1	—
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期)	63,841	2,076	2,170	△426

(2) 個別

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月14日発表)	52,300	4,300	4,200	2,500
今回修正予想(B)	53,600	3,800	3,800	△510
増減額(B-A)	1,300	△500	△400	△3,010
増減率(%)	2.5	△11.6	△9.5	—
(ご参考) 前期実績(平成19年3月期)	50,699	4,256	4,669	△13

3. 修正の主な理由

(1) 連結業績予想

- ① 平成19年度の税制改正に伴い、当事業年度より新減価償却方法を適用したことにより、減価償却費は中間期190百万円、通期418百万円各々増加する見込みであり、減益要因となりました。
- ② 米国の子会社である大同メタルベルフォンテンLLC.（以下、「DMB」という）は、再建に向けた取り組みを進めておりますが、売上原価削減の柱である労務費の圧縮に向けた賃金交渉において、賃金などを引下げる条件提示をいたしました。労働組合はそれを不服としてストライキに入っております。  
今回の交渉においてDMBは、一切の譲歩、妥協はしないとの固い決意のもと、強い姿勢で臨んでいることもあり、増加傾向にある売上、生産を確保するうえで、労務費・経費のコスト負担が一時的に増加していることから、中間期160百万円、通期1,030百万円各々費用負担が発生する見込みであり、減益要因となっております。
- ③ 欧州子会社の大同メタルコトールAD.（モンテネグロ）は、中間期において、製品在庫の新評価基準を適用したことによる評価減及び社会保険料等の既納付分における差異発生分として、365百万円を特別損失に計上する予定であります。
- ④ そのほか、国内子会社のエヌデーシー(株)は、国内生産再編費用と、在庫資産の評価差損の発生などにより、また、大同プレーンベアリング(株)は、生産体制の事前強化に伴う労務費増などにおいて、発生費用が予想を上回る見込みであります。  
海外子会社においては、欧州地域の大同メタルチェコ s.r.o. が、受注に伴う体制準備の早期着手などにより費用が増加していること、大同メタルヨーロッパLTD.でも販売体制強化に向けた増員、インフラ整備など費用が先行していることなどから、いずれも予想を超えた費用発生の見込みであり、減益要因となりました。

上記理由などにより、平成20年3月期中間期及び通期の連結業績予想を修正するものであります。

(2) 個別業績予想

- ① 当社は、米国の子会社である大同メタルアメリカ CORP. (「DMB」の持株会社) の株式評価損を、中間期は1,940百万円、また、通期では2,690百万円を特別損失に計上する予定であり、当期純利益の減益要因となりました。  
これは、DMBにおいて、上記(1)―②の理由により中間期及び通期の予想損失が拡大したことによるもので、この影響は、連結業績には及びません。
- ② 平成19年度の税制改正に伴い、当事業年度より新減価償却方法を適用したことで、減価償却費は中間期134百万円、通期306百万円各々増加する見込みであり、減益要因となりました。
- ③ 上記の主な理由のほか、売上の増加、費用の削減などによる増益要因と、大同プレーンベアリング(株)を核とした国内生産体制再編などに伴う費用増による減益要因により、平成20年3月期中間期及び通期の個別業績予想を修正するものであります。

以 上

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な数字に基づき当社グループで判断したものであります。予想には様々な不確定要因が内在しており、実際の業績はこれらの予想値と異なる場合がありますことをご承知おきください。